

序章 変貌する世界の大学教授職

- はじめに 11 / 1 研究の目的と方法 13 / 2 研究の視座
 ——規範とその崩壊 17 / 3 大学教授職の規定要因 30 /
 4 大学教授職の変貌 39 / おわりに 44

はしがき……………有本章 1

……………有本章 11

第I部 環境の変化

51

1章 大学改革の世界的動向

江原武一 52

- はじめに——大学改革の背景 52 / 1 大学の未来像 59 /
 2 大学改革と大学教授職の変容 63

2章 知識社会のインパクト

阿曾沼明裕 68

- はじめに 68 / 1 「知識社会」論の普及 69 / 2 イノ
 ベーション重視の知識社会論 72 / 3 学習重視の知識社会
 論 74 / 4 マネジメント重視の知識社会論 78 / おわりに
 ——神話としての知識社会 80

3章 グローバル化・国際化

黄福涛 86

- はじめに 86 / 1 概念の解明 87 / 2 教育活動の国際
 化 89 / 3 研究活動の国際化 92 / まとめ 96

4章 アカデミック・キャリア

小方直幸 99

- はじめに 99 / 1 博士学位の取得状況——大学教授職の基礎
 要件へ 100 / 2 博士学位の効用と大学教員の二層化 102 /
 3 学位をめぐる中心——周辺と国際化 105 / おわりに 106

5章 流動性

——研究活動を活性化しているか

浦田広朗 109

- はじめに 109 / 1 大学教員はどれくらい移動しているか
 110 / 2 なぜ移動しないのか 113 / 3 大学間移動がもた
 らすもの 115 / まとめ 120

6章

ジェンダー・バイアス——教員のライフスタイル

木本尚美 123

- はじめに 123 / 1 教員の関心の所在と教育・研究活動の実
 態 124 / 2 仕事全般についての満足度と教育・研究の両立
 128 / 3 家庭生活環境 130 / 4 日本の大学教員のライフス
 タイル 136 / まとめ 137

第Ⅱ部 大学組織と生活

143

7章

管理運営

藤村正司

144

はじめに 144 / 1 コミュニケーションの喪失 148 / 2 離
 脱 153 / 3 管理統制主義対同僚性 156 / おわりに——利得均
 衡点の変化 162

8章 労働条件

南部広孝

166

はじめに 166 / 1 所属大学の労働条件 167 / 2 専門職
 としての大学教員 173 / まとめ 177

9章 生活時間

長谷川祐介

180

はじめに 180 / 1 本章で用いる分析データ 182 / 2 生活
 時間の比較——八カ国比較 183 / 3 ライフステージによ
 る生活時間の相違——日米英独比較 187 / 4 教員の教育研
 究時間比率の規定要因 191 / おわりに 196

10章 給与

天野智水

201

はじめに 201 / 1 人事の決定と研究・教育 202 / 2 給与

の規定要因 203 / 3 所属機関外からの収入の規定要因 211
 / おわりに 212

11章 ストレス

西本裕輝

214

はじめに 214 / 1 我が国の大学教授職のストレス状況 215
 / 2 ストレスの規定要因分析 216 / 3 ストレス因の国別
 比較 217 / まとめ 219

第Ⅲ部 学問的生産性と評価

221

12章 研究業績の国際比較

大膳司

222

はじめに 222 / 1 研究業績形態別の平均成果量の国別・分
 野別比較 223 / 2 研究活動平均総得点の説明枠組みと分析
 結果 227 / おわりに 232

13章 教育活動

葛城浩一

239

はじめに 239 / 1 教育条件・環境 240 / 2 教育改善活動
 の取り組み 244 / 3 教育活動・授業内容等 247 / まとめ
 251

14章 研究と教育の関係……………福留東土 254

はじめに 254 / 1 研究と教育の関係——世界と日本の現状
254 / 2 大学院教育を通じた教育・研究能力の育成 259 / 3
研究と教育の関係に関する年齢区分別分析——大学教員の自己
成長のあり方 263 / おわりに 271

15章 評価……………村澤昌崇 274

はじめに 274 / 1 評価の主体は誰か？ 274 / 2 評価に
基づいた資源配分はどこまで進んでいるか 278 / 3 業績主
義・評価主義は教員の活動を後押しするか 280 / 結論 288

終章 大学教授職の展望……………有本章 291

はじめに 291 / 1 本書の概括 291 / 2 世界の大学教授職
の変貌 319 / 3 各国の大学教授職の特徴 327 / 4 二一世
紀型大学教授職の構築 349 / 5 世界の中の日本の大学教授
職——その変貌と今後の展望 354 / おわりに——提言 360

索引……………381